

## 平成20年度 県立下館工業高等学校自己評価表

No. 1

目指す学校像	1 心身ともに健康で、互いを尊重する豊かな人間性を培い、次世代を担っていく人材を育成する学校。 2 工業に関する知識・技術を身に付け、堅実な職業観を持った産業の発展に寄与する人材を育成する学校。 3 生徒の希望する進路の実現を図り、地域から信頼される進学も就職も可能な選択肢の広い学校。					
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況			
重点目標の達成状況は5段階評価で3.71であった。前年と同じ結果となった。 生徒の希望進路の実現を目指し、様々な取り組みをしてきたが、生徒の希望に合った就職は厳しかった。進学については、これも不況の影響か、希望者が少なく、進学率は伸びなかった。経済情勢の動向から、就職は更に厳しさを増すとの危機感を持ち、指導に当たる必要があると思われる。	基礎・基本の徹底と個別指導による学力の向上を目指す。	①授業等の工夫・改善により、学力向上に努める。各教科ごとに生徒一人一人の的確な学力診断を行い、それに応じた指導を試みる。家庭学習の習慣をつける。	3.83			
	資格取得実績の確実な伸長を図る。	②資格取得で県内トップを目指すことにより、ジュニアマイスターゴールドの誕生を目指す。資格取得のためのシラバスを作成する。	3.83			
	進路指導システムの構築による希望進路の達成を図る。	③生徒の多様な希望進路に対応できる3年間の進路指導マネジメントシステムを構築し、第1希望の合格率・公務員の合格率アップ、大学進学への拡充を目指す。	3.67			
	さわやかマナーアップ運動の推進と道徳教育の定着を図り、心の教育を充実させる。	④マナーアップ運動の推進と心の教育の充実のために、関係部署が連携を密にするとともに全職員で取り組む体制を確立する。	3.60			
	特別活動の充実と安心・安全な環境づくりを目指す。	⑤特別活動の充実を図るために、生徒の活躍できる場を広げる。また、各種の催しを通して地域に情報を発信する。 ⑥学校の教育活動への理解を深めるために、家庭・地域との連携を密にする。 ⑦各種の安全指導や安全管理、不審者対策等を充実して事故の未然防止に努め事故発生ゼロを目指す。	3.64			
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題		
教科	国	基礎学力の向上を図る。	小テストを利用して学習の理解度を把握し、不十分な生徒には補習をする。 ①	3.0	基礎学力の向上を目指す。	
		学習内容定着のため、放課後質問および指導の時間を設ける。	①	4.0		
	語	国語がわかる喜びを実感できるようにする。	授業内容・方法等について教科内で研究協議する。 ①	2.0		
		授業の改善に努める。	大きな声で朗読できるようにする。 ①	4.3		
指導	地理歴史・公民	基礎学力の向上を図る。	わかりやすい授業を心がけ、小テスト・補講等により理解の不十分な生徒への対応を図る。	①	3.7	視聴覚教材やIT・新聞・地図・図表等の積極的な活用を図る
			進路実現に対応した一般常識の定着を図る。	①	4.0	
			ノートを定期的に点検して学習の理解度等を把握する。	①	4.0	
	社会がわかる喜びを実感できるようにする。	視聴覚教材やIT・新聞・地図・図表等の積極的な活用を図る。	①	3.0		
		修学旅行の行き先の地理・歴史・文化等を取り上げ、事前指導の一助とする。	①	3.7		
		生徒の実態(興味・関心)に即した授業展開を図る。	①	4.0		

教 科 指 導	数 学	基礎学力の向上に努める。	1年生の習熟度別授業，2・3年生の一斉授業での個別指導を通してきめ細かな指導を行う。①	4.0	3.5	基礎学力の定着を図るため、家庭学習の習慣を身につけさせる。
			レディネステスト，単元別テスト等を利用して学習の理解度を把握し，不十分な生徒には補習を実施する。①	3.8		
			進学希望者への課外授業等を通して学力の向上に努める。①	3.3		
	家庭学習習慣の定着に努める。	問題集を利用して，家庭学習の習慣をつける。①	3.0			
		わかる授業へと改善を図る。	各種研修会に積極的に参加し，教科会で発表するとともに自己研鑽に努める。①	3.5		
	効率的な教材の開発を行う。①	3.3				
	理 科	基礎学力の向上を図る。	工業高校で学習する上で最低限必要な物理と化学の知識及び学力の定着に努める。①	4.5	4.1	授業への意欲的な取り組み態度を育てる。
			プリント学習等を利用して学習の理解度を把握し，不十分な生徒へは補習を実施する。①	4.0		
		理科の楽しさを実感する授業に努める。	実験を実施することにより理科への興味関心を惹きつける。①	4.5		
	家庭学習の定着に努める。	課題・プリント・実験レポートを定期的に提出・点検することにより，自ら調べ学習する意識を定着させ，家庭学習に結びつける。①	3.5			
	外 国 語 (英 語)	基礎学力の向上を図る。	小テスト等を実施し，授業での学習内容の定着を図る。①	4.0	3.8	生徒のニーズに応じた課外指導の在り方を検討する。
			ノートやプリントを定期的に点検し，学習状況の実態を把握する。①	4.0		
長期休業中に課題を与え，休み明けに課題テストを実施し，学習の習慣化を図る。①			4.0			
年度当初に外部テストを実施し，学力の経年比較を行い，各学年の学力の把握に努める。①			5.0			
課外を実施し，進学希望者の実践的学力の向上を図る。③			3.0			
学習指導の工夫に努める。		「音読」指導の時間を増やし，バランスのとれた授業展開を目指す。①	3.0			
		視聴覚教材・PC等の機器を活用し，多様な学習教材を用いて授業を行う。①	4.0			
各種研修等に参加し，自己研鑽に努める。①	3.0					
保 健 体 育	基礎体力および技能の向上を図る。	毎時間の授業の中で体づくり運動を取り入れる。①	3.0	3.5	体育時の見学者の数を少なくするよう努める。	
		技能の未熟な生徒や到達目標に達していない生徒に対しては，段階に応じて個別指導を実施する。①	3.0			
	運動の楽しさや喜びを実感できる授業の展開を図る。	ゲームを通して運動量を確保し，種目の特性を理解できる機会を多くする。①	4.0			
		勝敗を競い合うことの楽しさ，仲間と協力して達成する喜びが実感できる指導に努める。①	4.0			
	自らの健康について関心をもち活力ある生活を営む態度を育てる。	喫煙・飲酒・薬物乱用が健康に及ぼす影響について，学校生活全体を通して徹底指導を図る。⑦	4.0			
朝食を摂る習慣を身につけさせるとともに食生活の改善に努める。⑦		3.0				
家 庭	家庭生活に関する基礎的基本的な知識と技術を身につけ，実生活に取り入れる。	授業への取り組み方，提出物等の提出状況を確認し，理解度を確かめる。①	4.0	3.5	ホームプロジェクトの指導充実のために課題設定について考える。	
		授業中にワークシート・プリント・小テスト等を利用し理解させる。①	4.0			
	自らの生活に関心をもち主体的に営む力を養う。	実習・実験を通して，技術力を高めさせる。①	4.0			
		ホームプロジェクトを通して，主体的に取り組む力を身につけさせる。①	2.0			

教	芸術 (美術)	美術を愛好する心情を育成する。	絵画を通じデッサン、色彩、構成、材料や用具の生かし方などの技能の修得を図る。	①	3.0	3.4	授業での成果が日常的な拡がりにもで発展するよう努める。
			意図に応じた多様な表現方法の工夫ができるようにする。	①	4.0		
		感性を高め創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。	機能と美しさや楽しさを考えた主題の生成を図る。	①	3.0		
			鑑賞に関して、作者の心情や意図と表現の工夫を理解させる。	①	4.0		
	個性豊かな美術の能力を高める。	デザインを通じ生活を心豊かに想像する主題の生成を図る。	①	3.0			
科	芸術 (音楽)	音楽の基本的能力を身につけさせる。	楽曲に沿って音符・リズムなどの練習問題を与え関連性を学ばせる。	①	4.0	4.0	積極性・意欲を養えるよう課題を工夫する。
		芸術の幅広い活動を通して愛好する心情を育て豊かな情操を養う。	幅広い音楽的視野を持てるように、民族文化などの背景を学ばせたり、様々なジャンルの曲を聞かせたりする。	①	4.0		
			合奏の楽しさを感じさせると共にグループ活動の大切さに気づかせる。	①	4.0		
指	工業 (機械)	将来のスペシャリストの育成を図る。	指導計画に基づいたわかり易い授業の展開を図る。	①	4.3	4.3	基礎学力向上等のために常にわかりやすい授業の工夫を心がける。資格取得の更なる奨励と指導を工夫を心がける。
		基礎学力の向上を図る。	基礎・基本を充実させ先端技術を取り入れた設備の更新・充実を図る。	①	3.8		
			小テストを実施し、生徒個々の基礎学力の向上を図る。	①	4.3		
			授業の内容が完全に理解できるように、生徒に課題提出や補習等を実施する。	①	4.3		
			標準テスト（機械工作）の平均点は60点以上を取れるように継続的な学習の定着を図る。	①	4.2		
			標準テスト（機械設計）の平均点は60点以上を取れるように継続的な学習の定着を図る。	①	4.2		
	資格取得実績の確実な伸長を図る。	資格取得（2級ボイラー技士）の合格数で県内トップを目指す。	②	4.4			
		資格取得（危険物試験）の合格率で県内トップを目指す。	②	4.3			
		生徒の資格試験の合格率を上げるため、放課後の補習を行う。	②	4.6			
	工業 (電気)	基礎学力の向上を図る。	授業や実習におけるきめ細かな指導のために、教材研究には十分な時間をかける。	①	3.9	4.0	第二種電気工事士及び他の資格試験における合格率の更なる向上を目指す。
資格取得の実績を上げる。		理解が不十分な生徒に対しては、課題を与えることや補講などで指導を行う。	①	4.0			
		第二種電気工事士試験では、全員合格を目指し指導する。	②	4.4			
		授業で不足する部分は、放課後の講習で補う。	②	3.6			
	各種資格試験について、情報の提供などを通し生徒の関心を高めさせるような働きかけをする。	②	4.0				
導	工業 (建設工学)	基礎学力の向上を図る。	小テストを実施して理解度を把握し、不十分な生徒へは補習を実施する。	①	3.8	3.5	資格取得の講習会を更に充実させ、各検定の合格率を向上させる。
			学習内容の定着のため、放課後に質問の時間を設ける。	①	3.8		
			きめ細やかな指導を行い、その成果と課題を明確にし、次年度への改善策を検討する。	①	3.3		
	資格取得実績の向上を図る。	2級技術検定（土木・建築）学科試験の合格者を出す。	②	3.0			
		計算技術検定・情報技術検定3級の合格率80%以上を目指す。	②	3.0			
		競技会に積極的に参加する。	ものづくりコンテスト関東大会（橋梁部門・木材加工部門）の出場を目指す。	②	4.4		
	各種製図コンテストに出品する。	②	3.0				

教科指導	工業(電子)	基礎・基本の徹底と個別指導による学力の向上を目指す。	基礎理論について、きめ細やかに、そしてわかりやすく説明する。①	3.5	3.8	次年度も第二種電気工事士を始めとした資格取得指導を継続していく予定である。
			知識の理解度や計算能力の達成度を十分に把握し、授業展開に注意を払う。①	3.9		
			専門科目の演習問題を多く利用し、応用力をつけさせる。①	3.9		
			座学と実習を関連させながら、理論と実際の成り立ちをわかりやすく説明する。①	3.8		
		資格取得指導を一層充実する。	様々な資格に関する情報を提供する。②	3.8		
			放課後や長期休業期間等に、筆記関連および実技関連の課外授業で生徒のバックアップに努める。②	4.1		
教務		授業時間数の確保に努める。	授業時間数を確保するため、年休・出張時の授業の振替を徹底する。①	4.9	4.7	授業時間の確保から年間行事計画を調整する際に行事の再考及び精選を働きかける。 職員間のコミュニケーションをより緊密にし、職務の質の向上を図る。
			学校行事を精選したり、特別編成時間割を用いたりして、授業時間数を確保する。①	4.8		
		資格取得実績の確実な伸長を図る。	計算・情報技術検定試験の計画実施を通して、資格取得実績の確実な伸長を図る。②③	4.8		
		基礎・基本の徹底と学力の向上を目指す。	標準テスト等の企画実施を通して、生徒の基礎・基本となる学力の向上を目指す。①	4.5		
		研修を通して教員の資質の向上を図る。	人権教育等に関する職員研修会を実施し、教員の資質の向上を図る。④ 年間を通して発生する課題に対して、職員研修会を企画実施し、よりよい対応・対処ができるようにする。④⑥⑦	4.5		
生徒指導		「挨拶」「服装・頭髪」等の基本的なマナーを身につけさせる。	朝の立哨指導、服装指導を通して、挨拶の励行や服装頭髪等の改善に努める。④	3.3	3.3	挨拶の励行や服装等の改善を図る。 交通事故の未然防止に努める。
			職員週番(指導グループ)や各学年及び関係校務部との連携で、マナーアップ活動に全職員で取り組む体制をつくる。④	3.4		
		社会の一員としてのモラルの高揚に努める。	バイク通学者指導・車体検査・交通講話等を通して、交通安全の意識を高め事故を未然に防ぐ。⑦	3.3		
			盗難の頻発や許し難い器物破損等の行為については、集会(学年・全校)・検査・保護者宛文書、場合によっては警察に協力を依頼するなど、各校務部・家庭や関係機関との連携をはかる。④⑥	3.2		
		心の教育の充実に努める。	定期的に被害(いじめ)調査などを実施し、小さなサインを見落とさない体制を作る。④	3.2		
			各学年・教育相談部・保健室等との連携をはかり、生徒個々の密な情報交換に努める。④⑥⑦	3.2		
進路指導		計画的・継続的な指導による進路意識の高揚を図る。	計画的な進路ガイダンスにより、将来に夢や希望が持てる継続的な指導を図る。③	4.3	4.4	概ね進路指導部としての生徒進路希望実現への支援ができた。 次年度については、学年に委ねる形になるが、基礎学力の向上を目指すような学習ドリルの実施や模擬試験等を強く働きかける。
			各種適性検査のデータやワークシート等の活用を通して、各自の適性を知り職業観の定着を図る。③	4.5		
			工場見学・インターンシップ等の実体験を通して、勤労や職業に対する見方・考え方の形成を図る。③⑥	4.7		
		将来のスペシャリストとしての素養の熟成を図る。	教科・学年と連携し、模擬試験等による系統的に学力が身に付く体制づくりをする。①③	3.8		
			職業資格の奨励により、スキルアップ・職業意識の高揚を図る。①②③	4.3		
		外部との連携を充実する。	産業界や大学等との有効的なパートナーシップを築く。⑥	4.4		
			保護者への計画的・継続的な進路啓発活動に努める。⑥	4.3		
		情報提供を充実する。	「進路情報誌」、「進路だより」の発行や求人票のPDF化により適確な進路情報の提供を行う。③	4.5		
閲覧室の有効的な活用を図る。③	4.5					

特別活動	自主性を育てる生徒会活動の活性化に努める。	体育祭を中心とした学校行事において、生徒会・各委員会活動の自主的活動の活性化を促す。⑤	4.4	4.2	一般生徒の意見を吸い上げて、生徒会活動に活かしていく。
		生徒会新聞「志工」を行事ごとに発行し、生徒を通じ保護者等に校内の様子を知らせる。⑤⑥	4.8		
	学校行事を積極的に公表する。	校外ボランティア活動に積極的に参加することを勧め、地域とのつながりを密にする。⑤⑥	3.8		
		生徒が自ら考え行動できる生徒会活動の組織構築を行う。⑤	3.8		
厚 生	学習活動に適した環境の整備と学校の安全の確保を図る。	日頃の清掃活動及び行事等の前に実施する大掃除を充実したものにし、生徒の環境美化意識を高める。④	3.4	3.8	日々の清掃の徹底に努める。 他部長（学年等）との連携を密にする。
		学校保健安全計画に基づき、諸検査・安全点検・防火訓練等を実施する。⑦	3.8		
		奨学金等の事務処理を確実に行う。⑥	4.0		
	生徒の健康の維持・増進を図る。	学校保健安全計画に基づき、健康診断や検診等を実施し、結果についてはクラス担任や保護者と連携して対応する。⑦	4.0		
		「保健便り」の発行や講演会を通じて、生徒の健康や衛生に対する意識の向上を図る。⑥	3.8		
		保健室の円滑な管理・運営に努める。⑦	3.8		
		インフルエンザ等の感染症については、学校医等の協力を得てその流行の防止に努める。⑦	3.8		
	心身に問題を抱えた生徒への対応を図る。	生徒の保健室の利用状況を把握する。⑦	3.6		
		クラス担任、学年、教育相談部など関係部署と情報の交換等を行い連携する。④	3.6		
	図 書	図書館利用の促進を図る。	図書委員会活動を活発にし、より良い図書館利用について話し合う。①		
生徒、教師の要望を満たすバランスのとれた図書選定をする。①②			3.4		
図書室内の美化や図書の配置、整備を考え利用しやすい環境を整備する。⑤			3.4		
視聴覚室を活用する。①		3.6			
教育相談	心の教育の充実を図る。	小さなサインを確実に把握するため、情報交換の充実を図る。④	3.4	3.4	各学年との連携を密にした、対応に努める。
		保健室、指導担当との連携を図る。④	3.4		
渉 外	関係諸機関との連携を図り、家庭教育の支援を推進する。	P T A 会員に対する学習の機会及び情報の提供その他の家庭教育を支援するため研修、講演会や P T A 新聞の発行等を行う。⑥	5.0	4.5	新会則の実施を円滑に行なう。駐輪場の整備に向け努力する。
		P T A 会員相互の親睦を深め、P T A 行事への参加率の向上を図る。⑥	4.0		
情 報	生徒、校外に向けた情報の配信に努める。	D a t e - N e t による、校内閲覧の整備、HPの内容の充実、モバイル版HPの運用による生徒への情報伝達を充実させる。③⑤	4.6	4.3	情報モラルについて講習の機会を設ける。
	生徒が学習するための P C 環境を整備する。	教室 P C の利用を推進し、パワーポイントや指導用 DVD などの利用機会を増やすようにする。①	4.0		
活性化委員会	本校の教育活動を地域や中学校へ伝え活性化を図る。	公開実習を実施し、中学生やその保護者・教員に本校について理解してもらう。⑥	4.4	4.2	各科協力して、体験実習項目の充実を図る。
		「県西生涯学習センターフェスティバル」や「下館商工祭」に出展し、地域に本校の活動内容の P R を図る。⑥	4.2		
		中学生に向け「館工ニュース」を年 4 回発行し、本校の活動状況を伝える。⑥	4.0		

第1学年	基本的な生活習慣を確立する。	欠席・遅刻・早退をしない健康な身体作りと、家庭との連携のもと、規律ある生活を送るよう努める。⑥	3.9	4.1	服装・頭髪の指導等で生徒指導部・他学年との情報交換・連携を図り、更なる改善に努める。 基礎学力の向上をめざし、基礎力診断テスト・朝の確認テストを継続していく。
		各始業時に「服装確認」「黙想」を行うことにより、服装容儀を正し、挨拶の習慣化を図る。④	4.0		
		個別面談等を通して生徒理解を深めるとともに、家庭との連携を深め、きめ細かな指導の充実に努める。⑥	4.0		
	学力の向上を図る。	朝の演習により学習の習慣化を図るとともに、定期的な確認テストを行い基礎学力の定着を図る。①	4.0		
		長期休業後に年3回「基礎力診断テスト」を実施し、段階的な基礎学力の伸長を図る。①	4.5		
		各種検定・資格試験に積極的に取り組ませ、発展的な学力の伸長を図る。②	4.3		
	キャリアガイダンスを充実する。	適性検査（R-CAP）の分析データを活用し、自己発見から適性を知り、さらには職業観の定着を図る。③	3.8		
計画的な進路ガイダンスにより、将来的な進路の目標設定および自己実現ができるよう基礎固めを図る。③		4.2			
自主性の育成を図る。	クラス3役による学年運営委員会により、リーダーシップおよび自主性の育成を図る。④	4.0			
開かれた学年運営をする。	学年情報配信や学年通信、クラス通信等を活用し、保護者への情報提供に努め、開放的な学年運営を図る。⑥	4.5			
	保護者による学年委員会により、保護者の参加型の学年運営に努める。⑥	3.8			
第2学年	基本的な生活習慣の確立を図る。	学年で定めた「2学年のテーマ」「日常の五訓」に基づき学校での基本的な生活習慣を確立する。④	3.8	3.8	生徒の変化に対応した指導ができるように、家庭との連絡、関係部署と連携を図る。 社会情勢の変化に応じた進路指導を心がける。
		生徒の動向に注意を払い、変化にすばやく対応、家庭との密な連絡・校内の関係部署等とも連携の上で、適切な指導を心がける。⑥	3.6		
		修学旅行等の学校行事を通して集団生活を送る際の協調性や秩序を学ばせたい。④	3.8		
	学力の向上を図る。	授業での熱心な取り組みや家庭学習の習慣化を訴え、基礎的な学力・知識を身につけさせる。①	3.8		
		工業高校で取得可能な各種資格を紹介し、積極的な取得を促す。②	3.8		
		学年の係りが手作りで一般常識模擬テストを複数回実施し、発展的な学力の伸長を図る。①	3.8		
	希望進路の達成を目指し、自己の適性を見極められるようにする。	早くから目標設定を意識させ、その実現に向かって、LHRを利用した指導、進路指導部と連携した進路ガイダンス等を行う。③	4.0		
生徒との面談指導を積極的に行い、生徒の意識や成長を把握し、適切な方向付けができるようにする。③		3.7			
	インターンシップを通して、現代の社会情勢に対応した職業観を養う。③	3.8			
第3学年	基本的な生活習慣の確立を図る。	遅刻・早退・欠席に際しては、家庭との連絡を密にし、生徒の状況等の把握に努める。⑥	4.1	3.8	地域社会に認められる高校生をめざし、服装容姿の指導、資格取得・学力向上を進めていく。
		授業や集会においても正しく挨拶をさせ、挨拶の習慣化を図る。④	3.9		
		学年集会等で交通事故のゼロを呼びかけるとともに命の尊さを説くように努める。⑦	4.1		
		生徒指導部と連携し、頭髪、服装の指導を徹底する。④	3.6		
		生徒の様子を察知し、教育相談部と連携をとり事故問題防止に努め、家庭への連絡も行う。⑥	3.8		
	学力の向上を図る。	各教科担当者と協力し、高校生としての知識・教養が身につけられるようにする。①	3.4		

第3学年	希望進路の実現を目指す。	進路指導部と連携を図り，進路ガイダンスを計画し、進路に対する意識を高める。 ③	4.0	
		生徒と保護者との面談や連絡を密にし，個々人の希望進路を把握し実現に努める。 ③④	4.0	
		進路実現のため面接・論文等の指導の機会を設け，面接・論文のスキルを身につける。 ③	3.7	

※評価基準 5:大変よくできた 4:よくできた 3:ふつう 2:やや不十分 1:不十分